



鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.28
2021.3

編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp <https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/>

■ご挨拶 男女共同参画推進センター副センター長 渡部 由香（農水獣医学域農学系 准教授）

男女共同参画推進センターは、ワーク・ライフ・バランス支援、研究者支援、次世代育成支援等を実施しています。本年度は、新型コロナウイルス感染症により、セミナーはオンラインで実施できましたが、研究支援員制度では、研究支援員の大学内での従事が困難となったこと等で研究者への支援ができない時期がありました。新型コロナウイルス渦中では、エッセンシャルワーカーをどう支えるかが課題となりましたが、当センターの取組においても同様のことが言えます。人が人を支え、キャリアを継続できるようにしていくには、個を認め個を支えるという視点、つまりは男女共同参画やダイバーシティ、インクルージョンの風土が必要です。今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

■取組紹介

共通教育科目「男女共同参画社会」

性別に関わらずその個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現するために必要な基本的な知識と多角的な視点を習得するとともに意識の醸成を図ることを目的として後期に開設しています。本年度は新型コロナウイルス感染症対応策としてオンラインでの授業で100人が受講しました。本学の協力教員による、脳科学や家政学、法学、政治学、防災学等の視点での講義がありました。

岩船昌起教授（共通教育センター）による“防災と男女共同参画”では、鹿児島県男女共同参画局長の印南百合子氏から、東日本大震災以降の国の防災意識の変化や対応策、鹿児島県における防災計画等における人権への配慮等について話があり、地域の男女共同参画推進や高齢者の現状などについては、

鹿児島市の担当者からの情報提供等もありました。

学生からは受講前と受講後の意識の変化について、自分自身の無意識の性別役割分担に気づいたことや、性別に結びつけて物事を話す必要はないとの視点ができたこと、授業で得た知識だけでなく国内外の現状を知り自分にできることは何かを考えるようになったこと、出産や育児などが不利益にならない社会にしていきたいと思えたことなどが挙げられました。科目責任者の渡部由香先生は、自分の当たり前と思っていることを考え直すきっかけとなったことは自分らしさを発揮することつながるとともに、男女共同参画社会づくりを自分のこととして今後も生活してほしいと授業を締めくくりました。

保育支援制度

本学教職員の土日祝日の業務における通常利用サービス以外の保育サービス利用における保育料補助制度です。令和3年度は、2月までで31世帯が142回、主に病児保育サービスを利用しています。

介護相談会

鹿児島市地域包括支援センター（愛称：長寿あんしん相談センター※）のご協力により、学内での介護相談会を10月と3月に実施し、教職員5人（男4女1）が利用しました。相談後には「気持ちが少し軽くなり前向きになった」「職場でプライベートなことを話すことに抵抗があったが、相談会への申し込み際、上司や同僚の理解を得る機会ともなった」との感想があり、相談に対応した西野浩朗氏（※武・田上事業所長、社会福祉士）は、「親の病気の進行は先が見通せないことが多く、同居、別居に関わらず仕事との両立への不安は大きくなる。介護制度を知っておくと見通しが持てるようになるが、個々の状況によりサービス利用等が違う。このような相談の機会は、親の尊厳を保ちながら自分自身も大切にするために必要」とのアドバイスがあり、継続実施について検討することとしています。

■連携企画

全国ダイバーシティネットワーク組織 九州・沖縄ブロック会議

九州・沖縄ブロック会議には本学も参画しています。令和3年度の活動として、オンラインセミナー「グローバル化によって深化するダイバーシティ、その光と影」（2月5日）及び学習会（2月18日、3月25日）の開催と活動紹介小冊子を作成しました。小冊子は、参画する13機関の特色ある取組紹介も掲載されており、男女共同参画・ダイバーシティ推進への取組参考ともなるものとなっています。



■ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）WISH PLUS 活動紹介 トップセミナー



東京大学の松木則夫大学執行役・副学長（ダイバーシティ推移担当）を講師にお迎えし、令和3年1月21日に男女共同参画トップセミナーをオンラインで開催しました。セミナーには、佐野輝学長をはじめ役員、学部長等教職員130人が参加しました。

「東京大学におけるダイバーシティ&インクルージョン」と題した講演では、ダイバーシティ研究環境にはインクルージョンが必須として、同質性組織にはイノベーションが起こりにくく、マイノリティは差別や排除されやすい等の弊害があること、多様性のある組織には個性と能力を活かせる風土となることがメリットであり、

そのためには働き方改革や組織リーダーの目利きが必要で、相手の立場に立って考えることが求められるとの話がありました。また、女性研究者や女子学生支援等の東京大学の様々な取組の紹介とともに、多くのデータに基づき、研究力は男女差ではなく個人差として捉える必要性についての説明もなされ、女性の採用や登用に係る具体策の提案や男性の意識改革が必要との講話がありました。参加者アンケートでは、上位職に女性を増やす必要性について、大変よく理解できた40.3%、よく理解できた59.7%、女性を増やすための方策（複数回答）について、男性の意識改革82.3%、ライフイベント期の研究との両立支援69.4%、女性へのキャリアアップへの意識改革56.5%、若手研究者への研究力向上支援43.6%等の回答があり、本学の今後のダイバーシティ推進への取り組みへの参考となる有用な機会となりました。

キックオフシンポジウム



令和3年3月3日に、キックオフシンポジウムをオンラインで開催し、学内外から79人が参加しました。

佐野彰学長の開会挨拶、文部科学省の三輪善英氏（科学技術・学術政策局 人材政策課人材政策推進室長）と国立研究開発法人科学技術振興機構の山村康子氏（科学技術プログラム推進部プログラム主管）の来賓挨拶に続き、東北大学の大隅典子副学長（広報・共同参画担当）から「みんな違って、みんないい～ダイバーシティのススメ」と題して基調講演がありました。日本の自然科学系分野における女性研究者の少ない状況、無意識のバイアスやダイバーシティ

がもたらす研究環境への影響、東北大学の取組等について、数々のデータや具体事例を交えての説明やご自身の経験談等の披露がありました。郡山千早教授（医歯学総合研究科：WISH WG座長）のファシリテートで進められた意見交換では、女性の少ない環境での無自覚なジェンダー発言等への対応について出され、適度なノイズキャンセリング力をつけることや女性研究者同士の情報共有できる体制なども必要とのアドバイスがありました。また、外国人研究者からの質問に、講師から英語で無意識のバイアス等について説明もなされ、本学のダイバーシティ研究環境実現を考える有意義なシンポジウムとなりました。

個人の意識改革が必要だと思います。以前と比べて本学の研究環境整備の改善は見られますが、まだまだという部分も否めません。無意識のバイアスが自分にもあると、最近気づくことが多いです。郡山先生も大隅先生も英語力が素晴らしく、自分ももっと頑張ろうと思いました。

いろいろと考えさせられるところがあり有意義でした。女性には目に見えないいろいろなハードルがあるので、純粋に研究結果だけで評価はできないということ、そしてこれもバイアスになっていることを知らなれたことを、他機関の研究者である妻と話しました。妻は、1名ではなく複数公募に賛同していました。

参加者から寄せられた声

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、海外派遣等の取組は実施できませんでしたが、異分野融合研究プロジェクト創出研究助成事業や女性・若手大型種目チャレンジ支援事業を実施し、女性と若手への研究費助成を行いました。研究カススキルアップとして、英語論文書き方セミナーや英語プレゼンテーションスキルアップセミナー、英語論文校閲支援等も実施しました。また、教員公募におけるポジティブアクションとして、研究業績等が同等なら女性を優先するプラスファクター方式か女性限定公募での実施を決定しました。その他、学外アドバイザー制度や研究教授・准教授制度等については、よりよい制度となるよう検討中です。

鹿大の女性研究者に
Close-up!

大野 幸 講師 (鹿児島大学病院 全身管理歯科治療部)

2012年3月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 歯科麻酔全身管理分野
博士課程 博士(歯学)取得
2012年4月 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 全身管理歯科治療部 助教
2016年12月~2017年3月
大阪大学大学院 歯学研究科 口腔時間生物学科 招聘教員
2020年4月 鹿児島大学病院 全身管理歯科治療部 講師

★研究テーマは何ですか？

自分は歯科医師ですが、臨床では口腔外科手術や歯科治療時の全身麻酔をかけることが主な仕事です。全身麻酔に携わるにあたり、「人の意識」はどうやって生み出されているのだろうか？という疑問から、大学院時代は京都大学に国内留学し脳の局所回路の研究に専念しました。その後、縁あって大阪大学にて体内時計の研究をする機会に恵まれた関係で、現在ではこれらの経験を生かしつつ、日々の臨床にフィードバックできるような研究を大学院生と共に行っています。



★研究で苦労することはありますか？

臨床系の教室に所属しているため、基礎実験のためのセットアップをすることがとても大変でした。研究環境が整った場所では当たり前にもできることも、ひとたび場所が変わればこうも出来なくなるのか、と何度も感じました。他所で学んだ手技・手法を導入する際には、とにかく事細かにメモや写真に残し、できるだけ詳細な情報を持ち帰るように心がけています。

★研究者をめざそうとする人へのメッセージ

研究者を目指そうと身構えるよりも、今興味のあることを1つ1つ突き詰めて考えて形にしていく過程を楽しんで下さい。

★モットーは何ですか？

急がば回れ：慌てそうになる時ほど自分に言い聞かせるようにしています
腹八分目：本来は満腹まで食べない方が健康にいいといった意味かと思いますが、何事も完璧にやらない方が返っていいと拡大(歪んだ)解釈をしています。時には家事をサボる言い訳にも・・・。

★研究者を目指した理由を教えてください。

これまで確たる信念を持って研究者を目指していた訳ではなく、与えられた機会の中で自分の興味あることを続けてきた結果、今日に至ったというのが正直なところです。今回の「女性研究者にClose-up!」のお話を頂いて、自分は研究者でもあるのだな、と改めて認識したほどです。ただ振り返ると、ある疑問について仮説を立てて検証し、1つのストーリーにまとめるという作業は、小学生の頃から科学クラブに通って行っていたので、その頃から潜在的に研究というものが好きだったのかも知れません。



■鹿児島大学病院における男女共同参画の推進について

女性医師等支援センター長 上村裕一

鹿児島大学病院は、鹿児島県唯一の高度・先進医療を担う特定機能病院であり、地域医療に貢献するとともに、医歯学教育機関として若き医療人の育成・教育・研究に取り組んでいます。教職員における女性比率は看護師に女性が多いため以前から高く63.7%ですが、教員の女性比率を20%以上にする目標は、職場内保育園(さくらっこ保育園)の開設等の取り組みにより23.6%と達成できました(2020年12月時点)。

大学病院には教員だけでなく、医員、研修医、社会人博士課程の学生など妊娠、育児、介護等のライフイベント期にある方が多く在籍しています。その為、平成25年に女性医師等支援センターを開設し、相談支援体制を整えました。センターでは女性教員の職場復帰、定着支援にも取り組み、女性教員の増加に寄与しています。また今後研究者としてキャリアを積む医員・研修医へのメンター制度利用拡大や女性教員と若手医師との交流会にも取り組んできました。



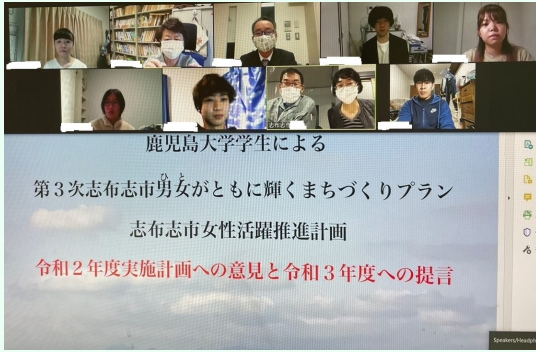
大学病院は臨床と教育、研究を両立させるために業務量が多く、ワーク・ライフ・バランスを良好に保つことが難しいという問題があります。この問題に対し先進的な取組を行っている事例を学び、男女共同参画への意識を高めるために、年1回院内講演会(写真)を開催しております。

現在大学病院は病棟建替えの進行や新型コロナウイルス感染症のため厳しい経営状況にあるため、病院職員の勤務環境も厳しくなりつつあります。しかし働きやすく研究しやすい環境作りに努力し、今後も一層男女共同参画を推進していきたいと思っております。



■学生の男女共同参画に係る取組紹介

法文学部法経社会科学法科学コース“ジェンダーと法ゼミ”が志布志市に提言



ジェンダーと法ゼミは、すべての個人が性に関わりなく尊重される社会の実現のために何ができるのかを学生たちと考えるため、原田いづみ教授が令和2年度に開講したゼミです。後期の取組として、鹿児島県志布志市の男女共同参画及び女性活躍推進の政策を検証し、2021年1月28日に、「鹿児島大学学生による志布志市第3次志布志市男女（ひと）が輝くまちづくりプラン、志布志市女性活躍推進計画 令和2年度実施計画への意見と令和3年度への提言」を志布志市企画政策課共生協働推進室に提出しました。また、同日、志布志市関係者に対し、6つの重点課題への意見等についてオンラインで報告しました。

原田教授からは、「地域社会、男女共同参画、ジェンダーなど、大学の活動として大学生が関わることが少ない領域で、ゼミ生らはチャレンジしてくれ、それが学生側にも地方自治体側にも新鮮な起爆剤となったようだ。これからもこういった取組は続けていきたい。また、学生からすれば、男女共同参画と言う施策を通じて地方行政、地方自治というものにわずかかもしれないが参画できたということが、これから社会に出て行く者として、良い経験になったと思う。こういったゼミ活動を受け入れてくださった志布志市には感謝したい。」とのコメントが寄せられました。

令和2年12月25日に閣議決定された国の第5次男女共同参画基本計画（令和12年度末までの「基本認識」並びに令和7年度末までの「施策の基本的方向」及び「具体的取組」）策定には、これまでと違う取り組みとして次代を何う若者の意見を聞く機会がもたれました。男女共同参画社会基本法施行から21年が過ぎ、目指す社会にはまだ道半ばの感があります。国や自治体等の男女共同参画の取り組みに関心を持ち、一人ひとりが認められ活躍できる社会に変わっていくよう行動していきましょう。

■地域における取組紹介

鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議

新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年12月22日に第3回会議をメール会議で開催し、鹿児島県や各大学等の取組について情報共有を図りました。また、各機関ごとにジェンダーデータや取組紹介を掲載したポスターを昨年に続き作成し、各機関内で掲示等して活用したほか、鹿児島県男女共同参画センターにより、かごしま県民交流センターの男女共同参画関連コーナーにて展示紹介されました。

鹿児島県女性活躍推進会議、鹿児島県女性活躍推進フォーラム

令和2年度鹿児島県女性活躍推進会議が令和2年11月26日に開催され、越塩俊介総務担当理事・副学長が委員として出席し、鹿児島県の女性活躍推進に向けた取組等について意見交換しました。また令和3年1月14日に開催された鹿児島県女性活躍推進フォーラムに、男女共同参画推進センターコーディネータ、人事課男女共同参画企画係長等がオンラインで参加しました。フォーラムでは、女性活躍推進優良企業知事表彰企業の事例発表、池田心豪氏（独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員）による基調講演「Withコロナ時代に考える女性活躍～これからの人材と働き方～」等から、コロナ渦中だけでなくアフターコロナ社会に向けた性別による格差の解消や働き方改革の必要など、誰もが能力を發揮し活躍できる職場づくりについて再考する機会となりました。

鹿児島市：サンエールフェスタ2021

令和3年1月19日から24日まで、鹿児島市男女共同参画推進課と生涯学習課による市民向け啓発イベント「サンエールフェスタ2021」が開催されました。鹿児島市サンエール1階ロビーでは男女共同参画等に係る取組紹介等がなされ、本学も「鹿児島大学男女共同参画推進」としてパネル等を展示及び本学の女性活躍推進に係る取組等が特集となった鹿大ジャーナル等の配置をしました。



Information

- ☆令和3年度前期研究支援員制度利用申請は3月19日に締め切りました。後期は7月頃に募集予定です。
- ☆休業からの復帰の際等に利用できる教員業務短期支援員制度があります。お気軽にお問い合わせください。
- ☆ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業は2年度目の取り組みを進めます。
- ☆着任間もない研究者で、支援制度等について知りたいなどありましたら、お気軽にお問い合わせください。